

エキマエの新潮流

点・線・面と連鎖する好循環



北陸新幹線福井・敦賀開業から1年が経過し、福井駅周辺は大きな変貌を遂げている。福井県が2025年4月に発表した調査によれば、開業後12カ月で県内を訪れた人数は約690万人と昨年比17%増加(表1)。特に関東圏、信越地域からの来県が顕著で、福井駅の来街者数は約111万人と前年同期から倍増した。

福井駅周辺では「福井駅前電車通り北地区A街区再開発事業」が完了し、ふくまちブロックがオープン。西武福井店北側の「B街区」や「駅前南通り」など大規模プロジェクトも進行中だ。また、福井駅周辺を会場とした全国規模のコンベンション(会議)も増加しており、全国経済同友会セミナー、中小企業団体全国大会、法人会全国青年の集いなど、大規模な全国大会が福井に誘致されている。

この人流増加を持続的にぎわいへと発展させるべく、福井商工会議所・福井県・福井市で構成する「県都にぎわい創生協議会」は、20年先を見据えた「県都グランドデザイン」を2020年10月に策定。その主要事業として2022年4月より「県都まちなか再生ファンド」を創設した。

このファンドは、中央1丁目(新栄商店街など)、中央3丁目(浜町な

ど)、愛宕坂周辺といった福井駅周辺エリアの魅力向上に寄与する店舗等の建替や改修に対し、県や市から補助が受けられる制度である。これまでに37件の事業が採択されている。

開業前から変化が見え始めてきた福井駅周辺。人流の増加は地域経済に活気を生み、新たなビジネスチャンスを生み出している。本特集では、北陸新幹線開業がもたらした福井の変化として、県都まちなか再生ファンドを活用した特徴ある飲食店の新たなチャレンジを紹介し、今後の展望を探る。

表1

北陸新幹線県内開業前・開業後12カ月間の
新幹線駅周辺の県外来訪者(県推計値)

地 域	比較期間 R6.3.16～R7.3.15およびR5.3.18～R6.3.15				単位:万人
	来訪者数	前年同期	増減数	前年比	
関東圏	120.6	93.3	27.3	129.3%	
関西圏	249.2	215.9	33.3	115.4%	
中京圏	75.8	72.1	3.7	105.1%	
北 陸	167.3	147.9	19.4	113.1%	
信 越	19.7	12.9	6.8	152.7%	
その他	58.3	48.3	10.0	120.7%	
合 計	690.9	590.4	100.5	117.0%	

引用: 福井県ホームページ

データ提供: KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」

※auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に、個人を特定できない処理を行って集計。

新幹線開業を見据え移転を決意

駅前から新たな飲食文化を創出

(株) IORI (フランス酒場 Antique)

代表取締役 清水 陽介 氏



新栄商店街に店を構えるフランス酒場Antique。北陸新幹線開業を前に、株式会社IORIの清水陽介社長は郊外から駅前への店舗移転を決断した。その経緯についてうかがった。

福井駅前移転のきっかけ

「北陸新幹線開業は大きなチャンスになると前から考えていた。周囲からは反対の声もあったが、決断して良かったと実感している」と清水社長は振り返る。福井市新田塚で営業していた当時はランチ営業がメインだったが、夜間の集客力強化や幅広い客層の獲得の可能性を見据え、移転を決意し

た。清水社長の期待通り新幹線開業により人の流れが大きく変化。「以前は誕生日や記念日利用が中心だったが、今では気軽に立ち寄れるバルとして日常使いされることが増えた。駅前はアルコールの需要が高く、2軒目以降の利用も増えている」と客層の変化を分析。土・日・祝日は終日営業し、近年福井でも増え始めた昼飲み需要にも対応。移転後は客単価が下がったものの、最大で1日3回転するほど回転率が向上し、売上は大幅に増加した。

新たな客層の獲得と地域連携

特筆すべきは県外客の増加だ。「以前は地元客がほとんどだったが、最近ではビジネスや観光など県外からの来店者が増えている。SNSやグルメサイトを見て足を運ぶ方も多い」と駅前エリアでの手応えを語る。立地について県外客からは「この辺りで飲むのが雰囲気がある」という声も聞かれ、新栄商店街のレトロな雰囲気と個性的な個人店が連なる環境が好評だという。

「フレンチという点と敷居が高いイメージがあるが、当店では居酒屋感覚でリーズナブルに楽しめるコンセプトを大切にしている」と清水社長。メニューには地元産のジビエや新鮮な野菜など福井県産の食材を積極的に取り入れ、地元の食文化を堪能できる工夫

が光る。

また、移転後は駅前でのイベントにも積極的に参加し、近隣店舗との協力体制も構築。「新栄商店街の事業者の方々と連携したイベント開催など、地域全体の活性化に貢献したい」と意欲を見せる。「今後は2店舗目を出店して、このエリアを飲食の集積地として盛り上げていきたい」と展望を語る清水社長。福井駅前について「すごくいい場所だ」と思っている。様子見をしていた同業者も最近では駅前出店を検討する声も多く聞かれる。新幹線開業を追い風に、このエリアがもっと変化していけば」と清水社長は熱意を込めて語った。



少人数で利用できる1階と団体利用可能な2階

駅前を食の発信基地へ

～リブランドで導く新顧客開拓～

(株)わらび 代表取締役 中村 敏明 氏(写真左)

(株)オーモリ 代表取締役 大森 伸夫 氏(写真右)

福井で店舗展開する「わらびグループ」が新ブランド居酒屋「炭と魚」をオープン。中村社長と建物オーナーの大森社長に、新店舗誕生の背景や駅前活性化への思いを聞いた。

総合居酒屋から専門店へ

中村社長は、コロナ禍で宴会需要が激減した2022年を振り返り「既存店の底上げだけでなく、次の一手が重要だと考えた」と語る。北陸新幹線開業後に県外客の割合が3割に増えた既存店の実状を踏まえ、新店舗のターゲットを県外観光客に設定。これまでの「わらび」では届かなかった層への

アプローチを目指した。

新店舗は総合居酒屋の枠を超え、越前漁港直送の新鮮な魚介類や調理法を前面に出し、食の魅力を凝縮した専門店として存在感を打ち出した。オープンな空間で調理の臨場感を楽しめる店づくりで差別化を図る。店名からは「わらび」の屋号を外し、料理をダイレクトに伝えるネーミングでターゲット層に響くイメージを構築。結果、団体宴会利用が中心だった既存店とは客層が変わり、カップルや少人数の観光客が増加。SNSを活用した広報活動にも注力し、県内外のインフルエンサーと協力して情報発信した結果、女性客を中心に新規顧客獲得に成功した。

地域を想う

ビルオーナーとの共鳴

福井駅前への出店を後押ししたのはビルオーナーの大森社長だ。単なる貸し手としてでなく地域活性化という理念を共有できる借主を探していた大森社長は「元々アパレルショップだった場所なので飲食店に貸すことにためらいはあったが、中村社長の事業への熱意と地域を盛り上げたいという強い意志に共感した」と振り返る。外壁塗装や袖看板撤去などまちの景観を意識した建物の外観改装や、臨場感あるカウンター席などの内装工事に「県都まち

なか再生ファンド」を活用し、駅前の活性化に貢献したいという両者の想いが結実した。「店舗運営の考え方や地域貢献など、両者の方向性が一致していなければ、今回の出店は実現しなかった」と大森社長は強調する。

「駅周辺がチェーン店ばかりになることを危惧し、地元企業として一石を投じたかった」と話す中村社長。今後についても「蕎麦」「日本酒」などのイベントなどを通じ、食の発信基地として福井の食文化をPRしていきたい」と意気込む。



(左) マグロ解体ショーなどイベントも積極的に開催 (右) 新建物の外観

専門家に聞く

県都まちなか 再生ファンドの効果

北陸新幹線福井開業から1年経ち、
福井駅周辺は着実に変化を遂げつつある。

「県都まちなか再生ファンド」の
運営担当者であるまちづくり福井(株)の
橋詰公人マネージャーに現状と展望をたずねた。



まちづくり福井(株)
マネージャー 橋詰 公人 氏

キーワードは「小規模連鎖型」

橋詰氏はファンドを活用する店舗について「小規模なりノベーションが成功事例として特に目立つ。ファンドを活用した店舗は開業後の売上が当初計画を上回るケースが多く、メディアやSNSでの北陸新幹線の話題も相まって、県外からの来客が増加している」と具体的な成果を挙げる。さらに「北陸新幹線福井開業後、駅近辺への出店を検討する飲食店からの問い合わせが特に増加しており、事業者の意欲の高まりを肌で感じている」と説明。「大規模な再開発エリアの周辺で、新栄商店街エリアを中心に小規模なりノベーション案件が徐々に集約され始めた。いわゆる『小規模連鎖型』のりノベーションが進行し、電車通りでの再開発にも繋がりは始めてきた」と手応えを語る。採択数37件のうち約3割が新栄商店街エリアでの案件である。

飲食だけでなく、多様化する相談

2025年4月末時点で延べ700件を超える相談が寄せられており「飲食店だけでなく最近ではアパレルや雑貨店、さらには民泊事業者からの相談も増えてきた」と橋詰氏。今後の展望について「複数の事業者が共同で空間を活用することで、より魅力的な場所

が生まれる。集合型りノベーションがさらに加速していくことを期待する」と未来像を描く。

一方で、次のような課題も見えてきている。「全国的にも空き店舗オーナーの高齢化や相続問題により、物件の流動性が低い。そこでファンドの相談では不動産オーナーと出店希望者のマッチングも強化している」と対策を説明。地権者が多いとされる新栄商店街についても「地権者とのコミュニケーションが以前に比べて密接になってきた。今後は駅周辺のにぎわいを目に見えろ形にし、民間投資の拡大、連鎖につなげていきたい」と意気込む。

「県都まちなか再生ファンド」申請について

ファンドの申請プロセスは、「事業計画書の作成・提出」「審査委員会でのプレゼンテーション」を経て、採択が決まる。審査のポイントとして「地域の魅力向上への貢献度、事業の継続性、他店舗との相乗効果」が重視されるとのこと。申請をお考えの事業者の方々には、まずは早めに事前相談をしていただきたい。

お問い合わせ

まちづくり福井(株)
TEL 0776-30-0330



りノベーションの連鎖は続く

新幹線開業効果を最大化する「県都まちなか再生ファンド」により、駅前の小規模店舗のりノベーションが進み、成果が現れ始めている。特に新栄商店街エリアでは、「点」としての個店が集合してまちの魅力を高めている。取材では、郊外からの移転で売上増加した例や県外客獲得など、新たな人流を取り込む動きがうかがえた。個々の事業者の挑戦から始まったこの流れは、飲食店だけでなく多様な業種へ広がり、駅前への投資意欲が高まっている。

ファンドを活用した事業は大規模再開発との相乗効果も生み出しており、この「小規模連鎖型」の取り組みは、一つの店舗改修が周辺への関心を高め、新たな出店を誘発する好循環を創出している。点在した個性的な店舗(点)は徐々につながり(線)、駅前全体(面)の価値向上へと発展していく。事業者と地域が一体となった持続可能なにぎわいの連鎖が生まれつつある。今後も官民一体の取り組みにより、福井駅周辺から地域全体へと活気が広がることを期待したい。